令和４年４月２０日

　各都道府県連絡理事校長　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　全国商業高等学校長協会

商業教育対策委員会

令和４年度　秋季研究協議会用　事例集の作成について（依頼）

　拝啓　陽春の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

　平素より商業教育対策委員会の諸活動に御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、全国商業高等学校長協会の令和４年度秋季総会・研究協議会では、「魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して－個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例－」と題して研究協議を行う予定です。

　つきましては、下記のとおり研究協議に関する「個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動の実践事例集」の作成に御協力をお願い申し上げます。

敬　具

記

１　依頼内容について

個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動について、各都道府県内の実践事例を２例御紹介いただければと存じます。なお、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の用語については、別添「参考」に掲載の定義を確認の上で実践事例を記述いただきますようお願いいたします。また、この個別最適な学びと協働的な学びの融合には、ＩＣＴの活用が有効であることから、ＩＣＴの活用を織り交ぜながらの記述に御留意くださいますようお願いいたします。

加えて、令和４年度秋季研究協議会におけるシンポジウムのパネリストの分担にあたっている茨城県（関東ブロック）、静岡県（東海ブロック）、山形県（開催県）については、２事例のうち１事例をパネリストとして登壇いただく予定の担当校にお願いいたします。

２　事例の作成について

作成方法　　　事例記入用紙（Wordファイル）Ａ４判用紙に各事例１枚にまとめて記載する。

 ※各事例は必ずＡ４判用紙１枚以内に簡潔にまとめてください。（写真・図表含む）

３　事例の提出方法について

提出方法 　全商協会事務局に**令和４年５月２７日（金）まで**にメールで提出ください。

件　　 名：都道府県名【学校名】商対アンケート　（例）東京都【全商高等学校】商対アンケート

提　出　先： **hofuku@zensho.or.jp**

ファイル名：【学校コード】都道府県（学校名）.docx　（例）【144001】東京都（全商高）. docx

※２例報告をいただくため、【144001】東京都①（全商高）. docx 、【144002】東京都②（都商高）. docx

　のように都道府県名の後に①か②を付記してください。①、②は事例集に掲載する順番になります。

※ファイル名等で使用する○囲み数字以外の数字は半角を使用してください。

４　各種書類ダウンロード先

 全商協会ホームページ → 全国商業高等学校長協会 → 書類ダウンロード

５　お問合せ先　全国商業高等学校長協会

 電話番号：０３－３３５７－７９１１　　ＦＡＸ：０３－３３４１－１０３９

 事務局次長　閑野　泉　 事務局担当　宝福真紀子

　　　　　　　　　　　　　　　　　以　上

**「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 都道府県名 |  | 学校名 |  |
| 科目名 |  |
| ＩＣＴ機器 |  |
| 単元名 | 　 |
| 単元目標 |  |
| １　単元目標を達成する学習指導計画２　実践内容(1) 授業概要(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動３　学習評価の結果とその分析　 |

**＜参考＞**

※　中教審答申（令和３年１月２６日）：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）より

**〇　個別最適な学び**

子供一人一人の特性や学習進度，学習到達度等に応じて，指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う，教師による「指導の個別化」によって，子供が自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を導き出す概念のこと。ＩＣＴの活用により，子供が自ら見通しを立てたり，学習の状況を把握し新たな学習方法を見いだしたり，自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。

**〇　協働的な学び**

探究的な学習や体験活動などを通じて，子供同士や地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，様々な社会的な変化を乗り越えて持続可能な社会の創り手となることができるよう，必要な資質・能力を育成する概念のこと。ＩＣＴの活用により，多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったり，空間的・時間的制約を緩和することによって交流を深めたりすることが重要である。

**「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 都道府県名 |  | 学校名 |  |
| 科目名 | 　※原則として商業の科目。履修学年、単位数、履修形態を記載。　　 |
| ＩＣＴ機器 | 　※授業で活用したＩＣＴ環境及び機器を具体的に記載。 |
| 単元名 | 　 |
| 単元目標 |  |
| １　単元目標を達成する学習指導計画※「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての記載があると参考になります。※学習指導計画については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の４つの活動内容やポイントについての記載があると参考になります。２　実践内容(1) 授業概要　※１コマの授業、もしくは一連の授業の内容を簡潔に記載してください。(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動※探究活動については、①どのような資質・能力（３つの資質・能力のうち、特にどれを、あるいは、３つをどのような比率で）を育成しようとしているか、②個別最適な学びと協働的な学びをどのように融合しているのか、③授業実施上、どのように工夫されているかについて、他校の参考となるように記載してください。３　学習評価の結果とその分析　※実践による生徒の学習評価の結果とその分析を簡潔に記載してください。また、評価について工夫されている点について記載があると参考になります。 |

**「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例（記入例）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 都道府県名 | 〇〇県 | 学校名 | 〇〇県立〇〇商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（２年次：２単位） |
| ＩＣＴ機器 | タブレットＰＣ(グループ一台）とアプリ「Google Workspace for Education」 |
| 単元名 | 本格的な「課題研究」(３年次）に向けて、その探究方法の基礎を学ぶ。 |
| 単元目標 | 渋沢栄一に関する教材を用いて、探究活動のステップを学ぼう。(第２・３学期） |
| １　単元目標を達成する学習指導計画　(1) 課題の設定　　　始めのエキスパート活動では、渋沢翁の「論語と算盤」の考え方を基に、「私利」、「公益」、「私利と公益の関係性」の３つに分けて作成された教材（ワークシート）を用いる。生徒はいずれかの教材を割り当てられ、同じ教材を学ぶ生徒たちで学び合いを進める。次にジグソー活動として、エキスパート活動で学んだ内容を他の２つの教材を学んできた生徒に説明する。その後、探究活動のテーマ「渋沢翁はどんな社会を創りたかったのか～日本資本主義の父が構想した理想社会とは～」に対して、グループで理想社会と現実のギャップを見つけていく。【個別最適な学び】個人によるワークシート（Google Classroom上）作成・提出と教師によるフィードバック　(2) 情報の収集　　　ジグソー活動の続きとして、グループで情報収集の意義や目的を明確にしながら、課題分析に必要な情報の目当てをもって、複数チャネルから関連情報も含めて情報収集を行う。【協働的な学び】Google Formsを用いたアンケート収集　(3) 整理・分析　　　ジグソー活動の続きとして、グループでVRIO分析や3C分析などの思考ツールやスキルを用いながら、収集した多くの情報を多様な視点から整理・分析する。【協働的な学び】Google Jamboardを用いた協働的な意見や情報収集などに対する整理・分析　(4) まとめ・表現　　　クロストーク活動として、グループで「結論や主張は何か」、「どうすればうまく伝わるか」などを明確にしながら発表や作文の構成を考えて、発表や文章作成を行う。発表や作文を基に議論を行う場を設ける。【個別最適な学び】ドキュメントに論文を記述して提出・フィードバック【協働的な学び】Google Slidesを用いたグループ発表２　実践内容(1) 授業概要（本時）　　　ジグソー活動のうち、探究活動のテーマに対して、グループで理想社会と現実のギャップを見つけていく。その際、自分たちの興味・関心(つくりたい未来）と社会における必要性・課題（気になる現状）、自分たちの探究テーマを見つけていく。今後、クラスでテーマ設定発表会と質疑応答を行うことで、自分たちのテーマの深掘りを行うことを意識させる。(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動　　　特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、発表や質疑応答などの協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明する力(論理力）を育てることに留意する。加えて、一連の探究活動を通じて、主体的に多様な人々と協働する力（学びに向かう態度）の育成に留意する。以上の認知プロセスの外化(発表・議論・記述など）と認知プロセスの内化（理解・定着など）の両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。３　学習評価の結果とその分析　　知識・技術：定期考査やレポートでどのような知識や技術を学んだか記述させる。　　思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：レポートや発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。 |